

2026 年度

明海大学大学院

応用言語学研究科

博士前期課程 B 日程

外国語試験問題

注 意 事 項

- 1 解答開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
- 2 日本語・英語・中国語から1言語を選択して解答してください。ただし、母語を選択することはできません。

2026年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 1/3

日程	研究科	区分	試験科目
B日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日本語

第1問 (1)～(10)の下線部の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 用語について筆者の 捉え方 や定義をまとめる。
- (2) この理論の妥当性を 包括的 に明らかにする。
- (3) 母語話者はほぼ全ての評価項目で作文 K に最も 言及 していた。
- (4) 学習を正しく 内省 することができるかという項目を設定した。
- (5) 質問紙法以外のアプローチを研究目的に応じて柔軟に 模索 すべきだろう。
- (6) 先行研究では教育的な介入研究を積極的に行うことが重要であると 指摘 している。
- (7) 本研究の結果は、Dに関する理論を 補完 するものである。
- (8) 調査協力者には、研究の目的および 匿名性 の確保について十分に説明を行った。
- (9) 回答データからは一部の意見に 偏り がみられる。
- (10) インタビューによって得られた発話データを 逐語的 に書き起こした。

第2問 (11)～(20)の下線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- (11) ここから次の2点が し さされる。
- (12) 調査の結果、使用傾向に違いが現れるが、正確な うんよう には至っていない。
- (13) 今後は調査を重ねて しんらいせい を高めていく。
- (14) 新たな ちけん を提供する。
- (15) Aについては、社会的文脈や規範によって せいやく される。
- (16) これは、発達段階を示す ちょうこう の一つだと考えられる。
- (17) Bについて先行研究では十分に けんとう されてこなかった。
- (18) これまでの分類をより さいぶんか する。
- (19) 先行研究では重要な部分が けつらく しているのではないか。
- (20) Cの地域を調査の たいしょう とする。

第3問 次の文の下線 (21)～(25) に適切なことばを下のA～Eから選んで、その記号を書きなさい。

- ・ 得点の平均値と (21) は以下のとおりである。
- ・ 数年間の実践を重ねた結果、この方法の有効性を (22) することができた。
- ・ この現象が何に (23) するものかは、まだ解明されていない。
- ・ アンケート調査の記述に (24) があるものを除いて、集計した。
- ・ 今回の結果は、(25) 研究分野のみならず、学際的研究に貢献する可能性を有している。

A.起因 B.標準偏差 C.不備 D.当該 E.実証

2026年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 2/3

日程	研究科	区分	試験科目
B日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日本語

第4問 次の文章を読んであとの問(1)～問(4)に答えなさい。

問題文については、
著作権の関係から掲載いたしません。

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
B 日程	応用言語学研究科	一 般 社 会 人 外国人留学生	日 本 語

問題文については、著作権の関係から掲載いたしません。

- 問(1) 下線部 A臨床試験なしの「薬」 とあるが、なぜ筆者はAIに対してこのような表現を用いたのか、わかりやすく説明しなさい。
- 問(2) 下線部 B人間の裏をかいたりする とあるが、「裏をかく」とはどういう意味か、わかりやすく説明しなさい。
- 問(3) 下線部 Cいずれ実現するという見方が支配的だ とはどういう意味か、「いずれ実現する」の部分はそのままにして、それに続く部分をわかりやすい表現に言い換えなさい。
- 問(4) この文章を読んであなたが考えたことを、120字以上150字以内で述べなさい。